

糖尿病全国Web講演会

～QOL向上を考慮した糖尿病治療～

謹啓 先生におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
また、平素は弊社製品につきまして格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
この度、下記要領にてTV/Web講演会を企画いたしました。
本講演会では、「週1回DPP4阻害薬を活用した糖尿病薬物治療」をテーマに、
全国の先生方を弊社のシステムで繋いで開催します。
ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、ご参加賜ります様よろしくお願い申し上げます。

謹白

日時

2016年 **6月1日(水)** **19:00**-20:00

会場

津山圏域雇用労働センター 中会議室

*お車でお越しの際は労働センターの駐車場をご利用ください

記



講演1

「週1回DPP-4阻害薬がもたらす
糖尿病治療への期待」

税所 芳史 先生

慶應義塾大学 医学部 腎臓内分泌代謝内科 専任講師

講演2

「QOL向上を考慮した薬物療法
～糖尿病薬は通院中断率を下げられるか?～」

戸崎 貴博 先生

医療法人TDE 糖尿病 内分泌内科
クリニックTOSAKI 院長



武田薬品工業株式会社

**慶應義塾大学医学部
腎臓内分泌代謝内科 専任講師**

(さいしょ よしふみ)
税所 芳史 先生



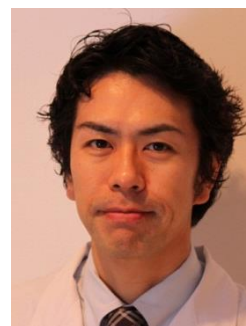
【経歴】

1998年3月 慶應義塾大学医学部卒業
1998年4月 慶應義塾大学医学部内科学教室入局
1999年12月 埼玉社会保険病院（現 埼玉メディカルセンター）勤務
2000年4月 静岡市立清水病院勤務
2001年4月 平塚市民病院勤務
2002年5月 慶應義塾大学医学部内科学教室腎臓内分泌代謝内科入局
2006年4月 米国UCLA Larry Hillblom Islet Research Center (Prof. Peter C. Butler)留学
2009年4月 慶應義塾大学医学部内科学教室腎臓内分泌代謝内科 助教
2015年10月 慶應義塾大学医学部内科学教室腎臓内分泌代謝内科 専任講師

【講演要旨】

2型糖尿病は進行性の疾患であり、将来の合併症の発症・進展抑制には、β細胞保護を見据えて、より早期からの治療介入と病態に応じた薬剤選択が重要である。一方で、近年では糖尿病の個別化治療の重要性に対する認識も益々高まっており、患者QOL維持を見据えた受診率や服薬アドヒアランス向上は2型糖尿病治療の喫緊の課題と言える。本講演では前述の課題を踏まえて、DPP-4阻害薬、特に本邦初の週1回製剤であるトラグリプチンが糖尿病治療に与えるインパクトについて皆様と一緒に考えてみたい。

**医療法人TDE 糖尿病・内分泌内科（とさき たかひろ）
クリニックTOSAKI 院長 戸崎 貴博 先生**



【経歴】

1998年3月 旭川医科大学 医学部医学科 卒業
1998年5月 名古屋大学医学部附属病院 研修医
2000年4月 名古屋大学医学部附属病院 第三内科 医員
2001年7月 愛知県厚生連 海南病院 代謝内分泌内科
2004年4月 名古屋大学大学院 医学系研究科 博士課程 糖尿病・内分泌内科
2008年4月 一宮市立市民病院 内分泌・糖尿病内科 医長
2010年4月 愛知学院大学歯学部 内科学講座 助教
2011年7月 糖尿病・内分泌内科クリニックTOSAKI 院長

【講演要旨】

昨年5月に世界に先駆けて本邦で発売されたWeeklyのDPP-4阻害薬トラグリプチンは現在の糖尿病薬物療法の臨床課題を解決することが期待されている。本講演では、糖尿病薬物療法の課題、私自身のトラグリプチン使用経験、及び当薬剤に対する期待について現時点での私見をお伝えする。

